

User Report

国際特殊貨物運送

株式会社ゴールド・スター

危険予知力を高めることが「唯一無二」の輸送を支える鍵。 二歩も三歩も先を読むドライバー育成に努めています

株式会社ゴールド・スターは海上コンテナや超大型精密機器など特殊貨物の輸送を専門に扱う輸送会社。保有車両のすべてにインターロックを装備するなど安全第一の運行体制を敷く同社で、ドライビングシミュレータがどのように活用されているのか取材しました。

ご利用機器

ACM300



ALC-ZERO II



導入のねらい

KYTのさらなる充実に向けて導入。
一般診断への対応でも負担が軽減



津布久：海上コンテナ貨物や重量品・特大貨物の大型トレーラー輸送を専門に扱う当社の場合、代替の利かない製品を扱っていることをドライバー自身が十分に認識し、それにふさわしい運転をすることが極めて重要

です。もちろん重大な自責事故を起こしたことはありませんが、例えば低床トレーラーの場合、貨物を積んでいない状態では、並走する普通車の運転者がトレーラー部分を見落としがちです。つまり、自分の運転がいくら確かなものであっても、周りの車の動き次第でいつ接触事故につながるかわからない。だから通常のトラック以上に、二歩も三歩も先を読む目配り、気配りが必要なのです。

そうしたことから当社ではKYT(危険予知トレーニング)に力を入れ、2年ほど前から社員教育に採り入れてきました。半年に1回乗務員が受講するドライバー研修では、毎回異なる道路状況の写真をしながら、その中に潜む危険箇所や対処方法をグループでディスカッション。その後、全体発表を通じて全員で共有するといった取り組みも行なっています。

このKYTをさらに充実させるために導入したのが「ACM300」です。

取材ご協力

株式会社ゴールド・スター

国際特殊物流事業本部
本部長

津布久 崇 様

〒244-0004
神奈川県横浜市戸塚区小雀町950
TEL 045-852-0661 FAX 045-852-0682



ドライビングシミュレータといえば、それまではGマークの一般診断時にトラック協会経験する程度でしたが、自社にあればいつでも必要に応じて社員教育に活かします。当社の場合、運行行程や貨物が日々変わるため予定を組むことが難しく、トラック協会に社員を出向させる負担だけを考えても、この導入は大きなメリットでした。

二本柱の研修
「深く考え」、「とっさの時の自分」を体験。
客観的な診断だから受け入れられやすい

津布久：「ACM300」を入れたからといって、座学研修が不要かといえばそれは違いますね。座学は“深く考える”もの。一方のドライビングシミュレータは“とっさの判断力”を養うもので、どちらも欠かせません。確かにシミュレータは実際のトレーラーと運転感覚がまったく違いますが、絶えず周囲の歩行者や車両などに気を配り、時時刻々と変化する状況に対応していかなければならないことは同じ。逆に、実際には起きてほしくないような状況もシミュレータ上なら経験できます。

さらに言えば、診断後にプリントアウトされる結果を見ながらの面談でも、第三者の客観的なデータだからこそ、自身の運転の傾向やクセを指摘されても受け入れられやすいようです。

先ほどKYTに取り組んでいるというお話をしましたが、安全については他にも安全対策会議や班長会議、点呼時教育、社外研修など14の項目を挙げて年間計画に取り組んでいるところです。今後、車両のバリエーションを増やし、より広いニーズに対応していく計画ですので、事業展開を支える意味でも、シミュレーション結果を他の安全教育に活かせるよう、多面的に活用していきたいと考えています。

2016年度安全への取り組み(抜粋)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 安全運転・省エネ運転10か条の徹底 | ドライバー安全教育 |
| 安全対策会議 | 班長安全会議 |
| 点呼時教育 | 取引先開催の安全会議への積極的な参加 |
| 健康診断及び健康面の啓蒙 | 運行管理者 一般講習受講 |
| 社外研修への出席・活用 | 安全標語コンクールの実施 |



取材後記
クセや慣れを排除し独自の安全意識を根付かせるため、採用面でもあえて未経験者を歓迎する同社。「他の交通を妨げない気配りのできる運転こそがプロ」と津布久氏が語る通り、実際に取材で接した社員もみな礼儀正しく、温厚な人ばかりだった。